

第57回 命より権利？

IT生

新型コロナで全国の学校が休校状態になっている。

子供の命を守るためと、クラスターをつくらないためだが、それでも、「学習の権利」とやらと天秤にかけているという非常に奇妙な現象がある。恐らく、全世界でも日本だけだろう。

ところが、「学習の権利」といいながら、動画授業の用意ができているかと思えば、これまた世界水準を満たしていない。「IT授業やEラーニングなぞ心が通わない」という学校関係者もいる。

国の根幹をなす教育をめぐる議論で、根拠のない主張がまかり通っている状況と一部の官僚（受験エリート）が混乱に拍車をかけている状況と表裏一体だろう。こうした新型コロナをめぐる状況と全く同じ景色が防災でもまみられる。



ゴールデンウィーク期間中の新型コロナへの警戒をよびかける表示。こうした注意喚起が町中にあふれている

現在、政府は、南海トラフ地震の発生を警告する臨時情報を流そうとしているが、臨時情報がだされた場合、1週間程度は警戒のための避難が推奨されている。おそらくその場合は、学校などの避難所に人がとどまることになる。そうした各地の状況をレポートしたテレビ番組をみていると、校長とおぼしき人物がでてきて、「子供たちの学習の権利の確保のためにも、避難所を早く撤収してもらいたい」などと息巻いていた。

命の話をしているのに、全くピントがはずれている。命の話をしはじめると、教育とはなんぞやという根本の議論が求められるだけに、本能的に忌避しているのだろう。そうした教育のたまものが官僚となって、国の行く末をあやうくしているのであるから、新型コロナがあぶりだした闇は深い。

(令和2年4月)